

令和２年度に市立小学校で使用する教科用図書を選定について（答申）

江田島市教科用図書採択地区小学校選定委員会

令和元年８月８日

令和２年度に市立小学校で使用する教科用図書の選定結果

種目	発行者	発行者の略称
国語	光村図書出版株式会社	光 村
書写	光村図書出版株式会社	光 村
社会	東京書籍株式会社	東 書
地図	株式会社帝国書院	帝 国
算数	学校図書株式会社	学 図
理科	株式会社新興出版社啓林館	啓林館
生活	東京書籍株式会社	東 書
音楽	教育出版株式会社	教 出
図画工作	日本文教出版株式会社	日 文
家庭	東京書籍株式会社	東 書
保健	株式会社学研教育みらい	学 研
英語	学校図書株式会社	学 図
道徳	日本文教出版株式会社	日 文

選定結果資料 種目 [国 語]

発行者名	東書	学図	教出	光村
特 徴	○「情報」について、特に取り上げて示していない。 ○第3学年「読むこと」を扱う物語文の学習の手引きによる学習の進め方は、個別→対話→個別の順で、個人が思考したことを生かして対話的な学習に移るようになっている。 ○第3学年の教材については、話す・聞く(5)、書く(7)、読む(11)の単元で、1つの単元内に、内容のつながりがある小単元が並列されている。 ○第5学年の説明文の単元については、写真が多く、図表は少ない。 ○全学年において図書館の活用について示されており、学年に応じた利活用を促している。	○「情報」について、特に取り上げて示していない。 ○第3学年「読むこと」を扱う物語文の学習の手引きによる学習の進め方は、個別2項目、対話2項目の活動となっている。 ○第3学年の教材については、話す・聞く(7)、書く(9)、読む(10)の単元で、小単元が羅列しており、つながりがない。 ○第5学年の説明文の単元については、イラストや写真が中心で、図表は少ない。 ○全学年において図書館の活用について示されており、学年に応じた利活用を促している。	○「情報」について、特に取り上げて示していない。 ○第3学年「読むこと」を扱う物語文の学習の手引きによる学習の進め方は、個別→対話→対話→対話となっている。 ○第3学年の教材については、話す・聞く(8)、書く(5)、読む(12)の単元で、主となる単元と小単元のセットで配列してあるが、内容的なつながりはない。 ○第5学年の説明文の単元については、写真が中心で、図表は少ない。 ○図書館の活用について示されているのは、第1～4学年である。	○各学年で学習する事項を数カ所に分けて「情報(じょうほう)」として示している。 ○第3学年「読むこと」を扱う物語文の学習の手引きによる学習の進め方は、個別→対話→発展的な学習についての対話となっている。 ○第3学年の教材については、話す・聞く(5)、書く(5)、読む(12)の単元で、1つの領域に集中して学習する単元が多い。学習事項がはっきりして分かりやすい。 ○第5学年の説明文の単元については、イラストや写真とともに、本文記述との効果的な関連付けがなされた図表やグラフが多く掲載されている。 ○全学年において図書館の活用について示されており、学年に応じた利活用を促している。

選定結果資料 種目 [書 写]

発行者名	東書	学図	教出	光村	日文
特 徴	○第3学年「ひらがな」の扱いは、平仮名を漢字ではなく片仮名と比較させている。片仮名と平仮名の筆使いを比較させ、その相違点を発見させることを主たるねらいとし、平仮名を書く際の力となるようにしている。 ○第4学年「生かそう」の過程では、硬筆を取り入れており、書き込む欄がある。 ○「書写のかぎ」にキーワードを書き込むことで、学習のポイントが明確になる。 ○第3学年の毛筆の手本及び筆使いの提示については、筆圧を言葉で示すとともに、穂先の向きをマークで示しており、分かりやすい。 ○書き込める欄があるので、学びを広げやすい。	○第3学年「ひらがな」の扱いは、漢字と平仮名の筆使いの相違点に着目させ、平仮名の筆使いの特徴を明らかにしようとするねらいとなっている。 ○第4学年「生かして書こう」の過程では、硬筆でなぞり書きをする欄と書き込む欄がある。 ○毛筆の確かめ書きで、課題意識をもたせた上で、練習に進むように構成されている。 ○第3学年の毛筆の手本及び筆使いの提示については、「はらい」についてのみ、筆圧を数字で示しており、穂先の向きが分かりにくい。 ○教材は多いが、複数学年で同様のものも多く、広がりにくい。	○第3学年「ひらがな」の扱いは、単に「気をつけて」とだけ示している。具体性に欠ける。 ○第4学年「生かそう」の過程では、硬筆を取り入れているが、書き込む欄は少ない。 ○学習の最初に鉛筆で試し書きをして課題意識をもたせてから、めあてに沿って練習するようになっている。 ○第3学年の毛筆の手本及び筆使いの提示については、「はらい」について、筆圧を言葉と数字で示しており、「はね」については数字で示しているが、穂先の向きのマークがない文字もあり、意識しにくい。 ○教材の種類が豊富である。	○第3学年「ひらがな」の扱いは、漢字と平仮名の筆使いを比較させ、その相違点を発見させることを主たるねらいとし、平仮名を書く際の力となるようにしている。 ○第4学年「生かそう」の過程では、硬筆を取り入れている。 ○それぞれの単元で学習したことが硬筆ページとしてまとめられており、既習の筆使いを確かめることができる。 ○第3学年の毛筆の手本及び筆使いの提示については、「おれ」「はらい」「点」などの部分を大きく取り上げて、ななめの穂先や筆圧をマークや言葉、数字で表示している。イラストもあって分かりやすい。また、穂先の向きの良い例と悪い例が示されている。 ○全学年において、教科等に広げることを意図したページがあり、教材の種類が豊富である。 また、第6学年で「書写ブック」という綴じ込みページがあり、6年間で学習したことを日常で生かすこつを振り返ることができる。	○第3学年「ひらがな」の扱いは、漢字と平仮名の筆使いの相違点に着目させ、平仮名の筆使いの特徴を明らかにしようとするねらいとなっている。 ○第4学年「いやす」の過程で硬筆を取り入れているが、書き込むスペースはない。 ○振り返りは「できたかな」の欄に丸をつけるようになっている。 ○第3学年の毛筆の手本及び筆使いの提示については、「はらい」「おれ」「そり」などの筆圧がイラストで示されており、分かりやすいが、穂先の向きのマークがない文字もあり、意識しにくい。 ○教材数は多いが、複数学年で同様の教材が多い。

選定結果資料 種目 [社 会]

発行者名	東書	教出	日文
特徴	○第4学年の都道府県の学び方として、「都道府県の特産品」で、各都道府県の特産品を地図中に絵で例示し、「空から日本を見てみると」で、各都道府県の海、山、川、湖等の地形を示している。また、「都道府県の特産品」「空から日本を見てみると」で、各都道府県の形をカードにして、都道府県名を記入できるようにしている。	○第4学年の都道府県の学び方として、「みりょくがいっぱい！知りたいな、47都道府県」で、都道府県の特産物、祭り、観光地について6個ずつ写真を例示している。	○第4学年の都道府県の学び方として、「日本の都道府県」で、各都道府県の名称と位置を示している。
	○第5学年の日本の位置と領土についての扱いは、日本の領土と領海についての地理的環境や位置を写真や図で簡潔に掲載しており、分かりやすい。	○第5学年の日本の位置と領土についての扱いは、日本の領土と領海について、写真や図を掲載している。	○第5学年の日本の位置と領土についての扱いは、日本の竹島等の位置について、写真や図を掲載している。
	○学びのポイントとして第6学年では、「政治・国際編」の最初の単元の中程に、見開きで「学習の進め方」のページを設け、「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」という学習の進め方を示している。	○学びのポイントとして第6学年では、巻頭に、見開きで「社会科の学習の進め方」のページを設け、「つかむ」「調べる」「まとめる」「つなげる」という学習の進め方を示している。	○学びのポイントとして第6学年では、巻頭に、「この教科書の使い方」のページを設け、「わたし（たち）の問題」「友だちの発言」「学習活動」「学習内容」「学習問題」「学習の計画」という言葉で、学習の進め方を示している。
	○体験的な学習を実施するための工夫として第6学年では、「ひろげる」の学習の中で「室町文化を体験してレポートを書こう。」というページを設け、茶の湯体験の様子と児童のレポートを例示しており、目的意識を持たせる工夫がある。	○体験的な学習を実施するための工夫として第6学年では、「まとめる」の学習の中で、茶の湯の写真を提示し、茶の湯を外国から来た旅行者に説明する活動を設け、児童の説明文を示している。	○体験的な学習を実施するための工夫として第6学年では、「調べる」の学習の中で、茶の湯や生け花を体験する児童の写真と、体験した児童の感想を提示している。
	○第6学年は、政治・国際編、歴史編の2分冊となっており、各分野での違いと関連を意識しやすくしている。	○第6学年は、政治、歴史、国際分野を1冊にしている。	○第6学年は、政治、歴史、国際分野を1冊にしている。
	○第4学年の自然災害から人々を守る活動については、「ひなん所シミュレーション」で、地震が起きて、学校が避難所になった場合、自分はどうするかを様々な立場から考えさせている。	○第4学年の自然災害から人々を守る活動については、地震や津波に備えた取組をまとめ、これからの生活に生かすための標語を作らせている。	○第4学年の自然災害から人々を守る活動については、災害に備える取組をまとめ、自分たちでできることを考えさせている。

選定結果資料 種目 [地 図]

発行 者名	東書	帝国
特 徴	○読図に関しては、「地図帳の使い方」で、地図記号、索引、方位、縮尺について説明するとともに、具体的な活用の仕方を例示している。[使用ページ数…2ページ]	○読図に関しては、「地図って何だろう」と「地図のやくそく(1)(2)(3)」で方位、地図記号、距離と縮尺について説明し、その後、「地図の使い方(1)(2)」で地図記号、土地の高さの表し方、索引、縮尺について説明するとともに、具体的な活用の仕方を例示している。[使用ページ数…12ページ]
	○巻頭の「地図のぼうけんに出発! WORLD MAP」や世界の各地方図で、物産や建物・地域の特色を示すイラストや写真等を掲載している。 巻末の「世界の国々」で世界の国旗を掲載している。	○巻頭の「世界発見!」で民族衣装・あいさつの言葉を掲載している。 巻末の「世界の国々」で世界の国々の国旗を、世界の各地方図で、地域の国旗や特色を示すイラストや写真等を掲載している。
	○近畿地方に「金閣」「銀閣」「東大寺の大仏」の写真を、中部地方図に「自動車工場と関連工場の分布」を掲載するなど、地域の特徴的な内容を紹介している。	○各地方図で、広島市の原爆被害状況、札幌市中心部の雪の多い都市の工夫等、各地域の特徴的な内容を紹介している。
	○巻末の「日本の自然災害」では、過去に起こった災害や、災害に備える国や地域の取組を掲載し、社会的事象について考え、判断することができるようにしている。	○巻末の「日本の自然災害と防災(2)」では、防災マップの例を示しながら防災マップづくりの手順を示し、体験的な学習を例示している。
	○「資料地図、統計表」で、ページの上段の言葉やキャラクターの吹き出しで、調べる視点等を示している。 ○日本の自然、産業、貿易、歴史、歴史と文化について、資料地図、統計表で示している。	○全般にわたって、「地図マスターへの道」で、学び方や調べ方等の簡単な作業を指示し、資料活用の仕方を示している。 ○日本の自然のようす、日本の自然災害と防災、日本の産業のようす、日本と世界の結びつき、日本の歴史と世界文化遺産について資料図で示している。

選定結果資料 種目 [算 数]

発行者名	東書	大日本	学図	教出	啓林館	日文
特徴	○第4学年の「数量の関係を表す式」の扱いは、2つの考え方を比較しながら考えていく流れになっており、ねらいに迫りやすい。	○第4学年の「数量の関係を表す式」の扱いは、2つの買い方を比較しながら考えていく流れになっており、ねらいに迫りやすい。	○第4学年の「数量の関係を表す式」の扱いは、2つの考え方を比較しながら考えていく流れになっており、ねらいに迫りやすい。	○第4学年の「数量の関係を表す式」の扱いは、2つの買い方を比較しながら考えていく流れになっており、ねらいに迫りやすい。	○第4学年の「数量の関係を表す式」の扱いは、2つの式を比較しながら考えていく流れになっているが、()を使うことに視点を当てにくい。	○第4学年の「数量の関係を表す式」の扱いは、2つの買い方を比較しながら考えていく流れになっており、ねらいに迫りやすい。
	○第1学年の「100 より大きい数」の扱いは、空位のある数を扱っている。	○第1学年の「100 より大きい数」の扱いは、空位のある数から扱っている。	○第1学年の「100 より大きい数」の扱いは、空位のない数から扱っており理解しやすい。	○第1学年の「100 より大きい数」の扱いは、空位のある数から扱っている。	○第1学年の「100 より大きい数」の扱いは、空位のない数から扱っており理解しやすい。	○第1学年の「100 より大きい数」の扱いは、空位のない数から扱っており理解しやすい。
	○第4学年の「折れ線グラフ」の扱いは、単元の導入において場面設定をし、興味関心を高める工夫がある。	○第4学年の「折れ線グラフ」の扱いは、単元の導入において場面設定をし、興味関心を高める工夫がある。	○第4学年の「折れ線グラフ」の扱いは、単元の導入において場面設定をし、興味関心を高める工夫がある。	○第4学年の「折れ線グラフ」の扱いは、単元の導入において、興味関心を高める工夫が少ない。	○第4学年の「折れ線グラフ」の扱いは、単元の導入において、興味関心を高める工夫が少ない。	○第4学年の「折れ線グラフ」の扱いは、単元の導入において、興味関心を高める工夫が少ない。
	○プログラミング活動を設定している学年が限られている。	○全学年でプログラミング活動を設定している。	○全学年でプログラミング活動を設定している。	○プログラミング活動を設定している学年が限られている。	○プログラミング活動を設定している学年が限られている。	○プログラミング活動を設定している学年が限られている。
	○学習の流れは、「問題をつかもう」、「自分の考えをかき表そう」、「友だちと学ぼう」、「ふり返ってまとめよう」となっている。	○学習の流れは、「問題をつかもう」、「自分で考えよう」、「学び合おう」、「まとめよう使ってみよう」、「ふりかえろう」となっている。	○学習の流れは、「主体的な学び」(「問題」「解決したいな」「考えたいな」「比べたいな」等)、「対話的な学び」(「話し合いたいな」、「説明したいな」)、「深い学び」(「深めたいな」、「つなげたいな」となっており、主体的、対話的、深い学びの3つの学び方で学習を進める設定になっている。	○学習の流れは、「問題をつかむ」、「自分の考えをもつ」、「みんなで話し合う」、「ふり返る」となっている。	○学習の流れは、「どんな問題かな」、「自分で考えよう」、「みんなで話しあおう」、「たしかめよう、ふりかえろう」となっている。	○学習の流れは、「どんな問題かな」、「考えよう」、「学び合おう」、「ふり返ろう」となっている。

選定結果資料 種目 [理 科]

発行者名	東書	大日本	学図	教出	啓林館
特徴	○単元末に、「たしかめよう」を設け、学習内容をふり返り、知識・技能の定着を自分で評価できるようにしている。また、どこをふり返ればよいか分かるように、ページ番号が示されている。 ○第3学年の「身近な自然の観察」は、多様な動植物に気付かせる工夫をしている。 ○問題解決の過程の示し方は、問題解決のための思考の流れが視覚的に分かりやすい。 ○年間ガイダンスや理科の学び方の記述が充実しており、年間の見通しが持ちやすい。 ○第6学年「電気と私たちの暮らし」は、シミュレーションしたり、実際に体験したりするプログラミング体験例を紹介しているが、日常生活との関連する記述が少ない。	○単元末に「たしかめよう」を設け、学習内容をふり返り、知識・技能の定着を自分で評価できるようにしている。 ○第3学年の「身近な自然の観察」は、多様な動植物に気付かせる工夫をしている。 ○問題解決の過程の示し方は、予想を大切にしているが、まとめは弱い。 ○年間ガイダンスの記載はない。 ○第6学年「私たちの生活と電気」は、実際に体験するプログラミング体験例を紹介しているが、条件に応じて「つく・つかない」というプログラミングの構造を理解させる記述が少ない。	○単元末に「まとめてみよう」を設け、知識・技能の定着を自分で評価できるようにしている。 ○第3学年の「身近な自然の観察」は、多様な動植物に気付かせる工夫をしている。いろいろな場所に生えている植物の写真を掲載し、場所と植物の関わりに目を向けさせる工夫をしている。 ○問題解決の過程の示し方は、学習の流れを矢印で視覚的に示している。 ○年間のガイダンスが、領域別に色を分けて記述されており、分かりやすい。 ○第6学年「電気と私たちの生活」は、シミュレーションを使って体験するプログラミング体験例はあるが、フローチャートのような図がないため、プログラミングの構造が捉えにくい。	○単元末に「たしかめ」を設け、単元で学習した言葉を使って、文章で説明させ、学習の定着が評価できるようにしている。また、どこをふり返ればよいか分かるように、ページ番号が示されている。 ○第3学年の「身近な自然の観察」は、掲載されている生き物が少ない。 ○問題解決の過程の示し方は、予想と実験結果との関係付けに力を入れている。 ○年間ガイダンスの記載はないが、「○学年で学んだこと」という前学年のふり返りの記載がある。 ○第6学年「電気の利用」は、シミュレーションやプログラミング体験例を紹介しているが、文章による記述が多く、視覚的に分かりにくい。	○単元末の「ふり返ろうまとめノート」では、学習内容のまとめの例が示され、学んだ内容が分かりやすく整理されている。「新しく学習した言葉」では、学習した理科学用語が示され、自己チェックができるマークを設けている。 ○第3学年の「身近な自然の観察」は、多様な動植物に気付かせる工夫をしている。動物と植物を分けたイラストを掲載することで、動物も植物も生き物であることを示している。 ○問題解決の過程の示し方は、予想・計画を児童に考えさせるのに適した進め方になっている。また、問題解決のための思考の流れが矢印でつながっており、視覚的に分かりやすく、問題とまとめのマークの色を揃え、問題とまとめがリンクする表示になっており、分かりやすい。 ○年間ガイダンスの記載はないが、「これまでの学習をつなげよう」では、学習した内容をまとめた説明があり、次年度へのつながりもみられる。 ○第6学年「発電と電気の利用」は、実生活における例を示し、プログラミングの構造を「条件と動作」で考えさせており、児童に理解させやすい。

選定結果資料 種目 [生 活]

発行者名	東書	大日本	学図	教出	光村	啓林館	日文
特徴	○住みか・餌等の飼育方法が示されている生き物は、上巻が3種類、下巻が4種類である。 ○上巻の観察カードについては、観察カードを書かせるために「比較」の視点を与え、違いや変化に気付かせるように働きかけている。また、「かんさつずかん」のページで、観察の仕方やカードの書き方等を示しており、絵や文章をかく時の参考になる。 ○スタートカリキュラムに関する内容は、13 ページ掲載しており、入門期の児童に分かりやすい内容になっている。また、「つながるひろがる」のページで、合科的・関連的な学習活動を示すとともに、「こんなにできるようになったよ」のページで、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を児童に示すとともに、保護者向けの説明も掲載している。 ○Web ページに情報があることを示す「D マーク」を掲載。また、花の生長を比較できるようにページが工夫してある。 ○下巻では、調べたことの伝え方や発表会において、相手意識や目的意識を明確にもたせており、児童の発表の言葉が掲載されている。	○住みか・餌等の飼育方法が示されている生き物は、上巻が3種類、下巻が4種類である。 ○上巻の観察カードについては、観察日記が2枚目の「はっぱがでたよ。」から掲載されており、種の観察の記録はない。また、「せいかつことば」のコーナーがあり、観察日記に書く表現の手立てとしているが、言葉の理解が難しく、児童の参考になりにくい。 ○スタートカリキュラムに関する内容は、6 ページ掲載している。また、「わくわくすることいっぱいだよ」のページで、合科的・関連的な学習活動を示している。 ○Web ページに情報があることを示す「パソコン」のマークを掲載。 ○下巻では、調べたことの伝え方や発表会において、発表の仕方を考える時に相手意識をもたせており、児童の発表の言葉が掲載されている。	○住みか・餌等の飼育方法が示されている生き物は、上巻が1種類、下巻が6種類である。 ○上巻の観察カードについては、かいた時の気持ちを表す顔マークの欄がある。また、「ものしりのうと」のページを設け、書き方を示している。 ○スタートカリキュラムに関する内容は、9 ページ掲載している。また、「やってみよう」のページで、合科的・関連的な学習活動を示している。 ○Web ページに情報があることを示す二次元コードを掲載。 ○下巻では、調べたことの伝え方や発表会において、相手意識や目的意識が不明瞭であり、児童の発表の言葉は掲載されていない。	○住みか・餌等の飼育方法が示されている生き物は、上巻が4種類、下巻が4種類である。 ○上巻の観察カードについては、カード毎に「ひんと」コーナーがあり、観察する時の視点になる。また、絵につぶやきを短い言葉で書き加えたり、→を付けて言葉でも示したりし、分かりやすい。 ○スタートカリキュラムに関する内容は、6 ページ掲載している。また、「わくわくするね。」のページで、合科的・関連的な学習活動を示すとともに、「じぶんでできていたよ」のコーナーで、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の主な例をページ下段にイラストで示しているが分かりにくい。 ○Web ページに情報があることを示す「まなびリンク」のマークを掲載。 ○下巻では、調べたことの伝え方や発表会において、相手意識が不明瞭であるが、目的意識はもたせている。児童の発表の言葉は、掲載されていない。	○住みか・餌等の飼育方法が示されている生き物は、上巻が3種類、下巻が3種類である。 ○上巻の観察カードについては、あさがおの成長に対する気持ちの記述が多く、国語科で学習する観察記録の書き方と関連付けて学習する時の手立てにはなりにくい。 ○スタートカリキュラムに関する内容は、10 ページ掲載している。また、「きょうはなにをしようかな。」のページで、合科的・関連的な学習活動を示している。 ○季節の資料を見ることが可能なことを示す二次元コードを掲載。 ○下巻では、調べたことの伝え方や発表会において、相手意識や目的意識が不明瞭であり、児童の発表の言葉が掲載されていない。	○住みか・餌等の飼育方法が示されている生き物は、上巻が5種類、下巻が7種類であり、種類が多い。 ○上巻の観察カードについては、観察の視点が、イラストの吹出しに短い言葉で示されており、分かりやすい。また、芽が出る様子を体で表現する写真があり児童が表現するための参考になる。 ○スタートカリキュラムに関する内容は、17 ページ掲載しており、全単元右ページ右下端に、児童のつぶやきを記載し、次の活動につながる工夫がされている。また、「うきうきあそぼう」のページで、合科的・関連的な学習活動を示している。 ○Web ページに情報があることを示す二次元コードを掲載。 ○下巻では、調べたことの伝え方や発表会において、相手意識や目的意識をもたせているが、具体的な例が少なく、児童の発表の言葉は掲載されていない。	○住みか・餌等の飼育方法が示されている生き物は、上巻にはなく、下巻が9種類である。 ○上巻の観察カードについては、入門期に、長い文章の記述は、児童の実態にそぐわない。また、学習方法の手がかりになる表記が少なく、国語科と関連付けた学習は、難しい。 ○スタートカリキュラムに関する内容は、14 ページ掲載している。また、「あそぼうまなぼう」のページで、合科的・関連的な学習活動を示している。 ○パソコンやインターネットの使用を促す「D マーク」を掲載。 ○下巻では、調べたことの伝え方や発表会において、相手意識や目的意識を明確にもたせているが、児童の発表の言葉は、掲載されていない。

選定結果資料 種目 [音 楽]

発行 者名	教出	教芸
特 徴	○第3学年の旋律や変化等を扱った鑑賞の題材では、学習目標を「せんりつのへん化をきき取りながらバイオリンのえんそうを楽しもう」と横書きで記載するとともに、「せんりつ」「へん化」「バイオリン」という言葉に色がついており、児童が何について学ぶのか、意識しやすい。また、旋律については、旋律の変化について記述する「メモ」の欄があり、音楽の要素「せんりつ」「音色」「反ぶく」「へん化」の言葉を示しているため、旋律の特徴を体感する手立てがある。 ○第4学年の歌唱教材「ゆかいに歩けば」では、スタッカートの歌い方について、「かたを楽にして、おなかに手を当てながら歌ってみよう」や『ゆかいに歩けば』の前半の部分をピ、ポ、マなどの言葉で、歌ってみよう。」と歌い方を示している。また、児童の写真で、スタッカートで歌う時の目や口の開き方、腹部の様子を示しており、分かりやすい。歌うときに、表情等をまねることができる。 ○リコーダー学習の導入では、構えたときの姿勢について、構えた時の斜め正面、右横、左横からの児童の写真を掲載しており、分かりやすい表記となっている。また、サミングについて、第4学年で写真と言葉で、親指を下へ滑らせる方法と親指を少し曲げる方法を示している。また、「ハローサミング」の曲のどこでサミングを使うのか、楽譜に ミ→高ミ(滑らせる方法)と、 高レ→高ミ(親指を曲げる方法) を2つの方法を写真と言葉で記載しており、分かりやすい。 ○音楽づくりに関して、第3学年の「みんなで 合わせて」では、学習過程が簡潔な言葉で示されており、児童にとって分かりやすい。 ○音楽の特徴をとらえさせる指導の工夫として、第3学年「ふじ山」や第6学年「バイオリンとピアノのためのソナタ」においては、体を動かしながら音楽の諸要素を体感していく記述がある。 ○第5学年の鑑賞を扱った教材では、友だちと感じたことを共有し、学習を深める記述がある。また、巻末の「音楽を表すいろいろな言葉」(第2学年～第6学年)は、音楽の諸要素ごとに例示しており、自分の思いを表現する際に活用するのに有効である。	○第3学年の旋律や変化等を扱った鑑賞の題材では、学習目標を「曲のかんじを味わってききましょう。」と横書きで記載。また、旋律については、旋律の流れをイラストで示しており、旋律ごとに、感じたこと、気付いたことを記述する欄がある。 ○第4学年の歌唱教材「ゆかいに歩けば」では、スタッカートの歌い方について、「スタッカートのところは、わらったときのようなおなかの動きを感じて、軽くはずむように歌いましょう。」や「言葉があいまいにならのように、はっきりと発音して歌いましょう。」など具体的な記述で歌い方を示している。また、児童のイラストで、スタッカートで歌う時の目や口の開き方、腹部の様子を示している。 ○リコーダー学習の導入では、構えたときの姿勢について、構えた時や座って吹く時の写真も掲載している。また、サミングについて、第4学年で写真と言葉で、親指を下へずらす方法と親指を少し曲げる方法を示している。また、2つの方法の親指の動かし方について、矢印で示している。 ○音楽づくりに関して、第4学年の「いろいろな音のひびきを感じ取ろう」では、学習過程が示されている。 ○音楽の特徴をとらえさせる指導の工夫として、第3学年「ふじ山」や第6学年「ハンガリー舞曲 第5番」においては、体を動かしながら、音楽の諸要素を体感していく記述がある。 ○第5学年の鑑賞を扱った教材では、友だちと感じたことを共有し、学習を深める記述がある。

選定結果資料 種目 [図 工]

発行 者名	開隆堂	日 文
特 徴	○振り返りについては、育てたい力を自己評価する手助けとなるよう「ふりかえり」を示している。	○振り返りについては、題材を終えた後、感じてほしいことを児童のつぶやきの形で例示しており、振り返りがしやすい。
	○〔共通事項〕を視点とした学びの示し方については、キャラクターが、〔共通事項〕を視点とし、思考させるコメントをしているものがあり、学びを促している。	○〔共通事項〕を視点とした学びの示し方については、全ての題材に活動と〔共通事項〕を結び付けられるようキャラクターを設定し、発想のヒントを与えたり、学びを促したりしている。
	○導入の文の示し方と具体例については、第1・2学年上「ちぎって はって」等において、児童の興味・関心を高める文章を記載している。	○導入の文の示し方と具体例については、第1・2学年上「やぶいた かたちから うまれたよ」等において、児童の興味・関心を高める文章とともに、活動の概要を端的に表しており、分かりやすい。
	○鑑賞の対象と示し方として、鑑賞の題材では、各学年に4ページ扱いの内容として、様々な美術作品の鑑賞活動を通して、各国の文化を尊重する態度を養うようにするとともに、各学年に「みんなのギャラリー」を設定し、日本各地の伝統と文化に触れ、そのよさを味わうことができるようにしている。	○鑑賞の対象と示し方として、巻頭の折り込みページ「教科書美術館」で、作家作品の詳細まで鑑賞できるように大きく掲載するとともに、各学年に表現や体の感覚や操作を伴う鑑賞の題材を設定している。また、第3学年～第6学年には、「図画工作のつながり ひろがり」のページで、作者の表現に込めた思いや美術館とのつながりなどを伝えている。
	○作品や造形活動の示し方と具体例については、第5・6学年上「糸のこの寄り道散歩」等において、作品や造形活動について、題名や作者の考えや感想を示している。	○作品や造形活動の示し方と具体例については、第5・6学年上「糸のこすいすい」等において、作品や造形活動について、題名や作者の考えや感想を詳しく示しており、分かりやすい。
	○発想や構想、鑑賞の場面における言語活動の示し方、具体例については、各学年において、作品についての互いの見方や感じ方から、話合いのヒントを示している。	○発想や構想、鑑賞の場面における言語活動の示し方、具体例については、各学年において、作品に込めた自分の思いや、それを実現するための工夫を紹介しており、児童が作品について話し合う時のヒントになる。

選定結果資料 種目 [家 庭]

発 行 者 名	東 書	開隆堂
特 徴	○「1 見つめよう」→「2 計画しよう・実践しよう」→「3 生活に生かそう・新しい課題を見つけよう」の3つのステップで構成されているだけでなく、小単元のすぐ上に全て記載されているので、児童が主体的に学べる。3ステップを繰り返すことで、学習の見通しを持ちやすくなるとともに、学び方を身に付けさせることで、実生活に活用できるようにしている。また、小題材の下には、「めあて」のマークとともに、めあてが示されており、分かりやすい。 ○レポートや新聞、スクラップブック形式、ポスター形式でのまとめ方を掲載し、児童が参考にしやすい。 ○「A 家族・家庭生活」は、9 題材、「B 衣食住の生活」は、10 題材、「C 消費生活・環境」は、3 題材、計 22 題材である。関連のある学習内容を一つの単元に組み込み、関連付けて配置しており、児童に家庭生活をよりよく工夫しようと意識させやすい。 ○第5学年の大単元「物を生かして住みやすく」では、活動「やってみよう」として、整理整頓とともに、掃除の手順を学習することができるようになっている。児童が、家庭で実践しやすい工夫がある。 ○学習上参考となる資料等に「図1」「活動1」「資料1」と書いてあるため、全体指導の際に指示しやすい。また、写真、イラスト、図等が段階を踏んで順序良く示されているとともに、道具等をよりよく使うための注意が分かりやすく掲載されている。 ○主に「活動」のマーク（話し合おう、調べよう、考えよう、やってみよう、深めよう、交流しよう）で示されているところで、生活をよりよくするための方法を考えたり、説明したりする活動を取り上げている。	○「1 見つける・気づく」→「2 わかる・できる」→「3 生かす・深める」の3つのステップを基本として構成している。第5学年は、題材を細かく構成・配置し、スモールステップで学習ができるようになっている。また、学習のめあては、大題材の最初のページに、小題材ごとに示されているが、意識しにくい。 ○計画を立てたり、振り返ったりする学習の流れをフローチャートで掲載。 ○「A 家族・家庭生活」は、9 題材、「B 衣食住の生活」は、17 題材、「C 消費生活・環境」は、4 題材、計 30 題材である。 ○第5学年の大単元「整理・整とんで快適に」では「参考」として、「しまい方の工夫」が掲載されている。掃除の仕方については、第6学年に配置されている。 ○学習上参考となる資料等に「安全」「参考」「環境」など、何に関することかが分かりやすく書かれている。また、写真、イラスト、図等が段階を踏んで順序良く示されている。 ○主に「考えよう」「話し合おう」「発表しよう」のマークで示されているところで、生活をよりよくするための方法を考えたり、説明したりする活動を取り上げている。

選定結果資料 種目 [保 健]

発 行 者 名	東書	大日本	文教社	光文	学研
特 徴	○食育・安全・体力向上に関する記述として、インターネット犯罪被害の記載がある。また、体力向上についての運動例を記載している。	○食育・安全・体力向上に関する記述として、犯罪被害にネットの記載はあるが、やや少ない。	○食育・安全・体力向上に関する記述として、「健康な生活」でネット等の記載ないが、「犯罪被害」でネットの記述を吹き出しで記載している。	○食育・安全・体力向上に関する記述として、「けがの防止」で歩きスマホやインターネットの正しい使い方を記載している。また、体力向上についての運動例を記載している。	○食育・安全・体力向上に関する記述として、「健康な生活」「犯罪被害」「病気の予防」でインターネットの正しい使い方を記載している。また、体力向上についての運動例を記載している。
	○振り返りについては、学習したことを活用する場が児童に考えやすいように設定されているが、書く欄が多い。	○振り返りについては、学習したことを活用する場が設定されている。	○振り返りについては、学習したことを活用する場が設定されている。	○振り返りについては、学習したことを活用する場が児童に考えやすいように設定されている。	○振り返りについては、学習したことを活用する場が設定されており、単元を通してのまとめもある。
	○学習の進め方の示し方を巻頭で示しており、学習の進め方がシンプルで分かりやすい。	○学習の進め方の示し方を巻頭で示している。	○学習の進め方の示し方を巻頭で示している。	○学習の進め方の示し方を巻頭で示している。	○学習の進め方の示し方を巻頭で示しており、学習の進め方がシンプルで分かりやすい。
	○第6学年「病気の予防」では、ネット依存等については、「さまざまな依存症」として3分の1ページ程度の記載している。また、がん予防については、2分の1ページ程度掲載している。	○第6学年「病気の予防」では、ネット依存等の記述ないが、がん予防については、3分の1ページ程度の記載している。	○第6学年「病気の予防」では、ネット依存等やがん予防を取り上げた記載はない。	○第6学年「病気の予防」では、ネット依存等の記述ないが、がん予防については、3分の2ページ程度詳しく掲載している。	○第6学年「病気の予防」では、パソコンやタブレットと健康について、3分の1ページ程度の記載している。また、がん予防については、1ページ程度掲載し、内容が充実している。
	○「体の発育・発達」に関わる単元については、本文に関連するイラスト、写真、グラフが大きく分かりやすい。	○「体の発育・発達」に関わる単元については、本文に関連するイラストが多いが、写真の使用が少なく、小さい。また、グラフの見方が分かりにくいものがある。	○「体の発育・発達」に関わる単元については、本文に関連するイラストが多いが、写真の使用が少ない。	○「体の発育・発達」に関わる単元については、本文に関連するイラストが多く、使用されている写真はやや小さい。また、1ページにイラストや文字が多く、見づらい。	○「体の発育・発達」に関わる単元については、本文に関連するイラストと写真がバランスよく配置されており、見やすい。また、写真の使用も効果的である。
	○自分の考えを記入する活動の数は、書く活動(76)、話し合う活動(7)であり、考えを記入する項目がやや多い。	○自分の考えを記入する活動の数は、書く活動(32)、話し合う活動(17)であり、話し合う活動は、絞り込む必要がある。	○自分の考えを記入する活動の数は、書く活動(30)、話し合う活動(17)であり、話し合う活動は、絞り込む必要がある。	○自分の考えを記入する活動の数は、書く活動(45)、話し合う活動(21)であり、書く活動と話し合う活動ともに焦点が絞り切れていない。	○自分の考えを記入する活動の数は、書く活動(29)、話し合う活動(10)であり、書く活動と話し合う活動が精選されている。

定結果資料 種目 [英 語]

発行者名	東書	開隆堂	学図	三省堂	教出	光村	啓林館
特 徴	○第6学年「助動詞 can」については、4単元で can を使用しており、Unit 3 で can を主に使用している。他の単元では、児童の必要に応じて can を使用している。	○第6学年「助動詞 can」については、4単元と1つの project で can を使用しており、Lesson 3 で can を主に使用し、Lesson 4 では必要に応じて使用している。他の2単元と project 1 では、can を使用した例文は記載されていない。	○第6学年「助動詞 can」については、4単元で can を使用しており、自分のことを表現する活動の中で使用されている。他の3単元では、can の入った英文を聞いたり、読んだりする活動が設定されている。	○第6学年「助動詞 can」については、2単元で can を使用しており、自分のことを表現する活動の中で使用されている。	○第6学年「助動詞 can」については、6単元で can を使用しており、どの単元でも、児童が読んだり書いたりする活動において使用されている。	○第6学年「助動詞 can」については、5単元で can を使用している。そのうち4単元で、書く活動や音声を聞きながら、指で追う活動の中で使用されており、1単元で、自分のことを話す活動で使用されている。	○第6学年「助動詞 can」については、3単元で can を使用している。チャンツなどで can の入った音声に慣れ親しみながら、書く活動でも can に触れられるように設定されている。
	○振り返りについては、学習内容に関連したテーマごとのスピーチを設定しており、内容と相手につたえる工夫を☆の数で振り返る。内容の振り返りの視点が具体的でないが、相手に伝える工夫の振り返りの視点は具体的である。	○振り返りについては、学習した単元ごとに振り返りを行い、3観点について4段階の色ぬりで振り返る。	○振り返りについては、学習した単元ごとに振り返りを行い、4観点を3段階で振り返る。4観点の振り返りの視点が具体的に自由記述の振り返りもある。	○振り返りについては、いくつかの単元で学習したことをもとに、プレゼンテーションを2回行い、マイゴールを設定し、振り返る。また、英語表現の工夫を振り返る自由記述もあるが、何を振り返るのか分かりにくい。	○振り返りについては、学習した単元ごとに振り返りを行い、4観点を3段階の色ぬりで振り返る。観点ごとの違いが区別しにくい。	○振り返りについては、学習した単元ごとに振り返りを行い、観点を4段階の色ぬりで振り返る。また、「考える」や「深める」の自由記述の振り返りもある。	○振り返りについては、単元を細かく分けた Part ごとと、単元末に振り返りを行い、Part ごとの振り返りを3段階で行い、単元の学習の振り返りを5観点で行う。また、自分の表現したいことを振り返る自由記述もある。
	○第6学年「夏休みの思い出」では、「読むこと」と「書くこと」は単元に関する表現を扱い、小単元の最後に段階的に取り組ませる構成である。	○第6学年「夏休みの思い出」では、「読むこと」と「書くこと」は単元に関する表現を扱い、単元末に取り組ませる構成である。	○第6学年「夏休みの思い出」では、「読むこと」と「書くこと」は単元に関する表現を扱い、小単元の最後に段階的に取り組ませる構成である。	○第6学年「夏休みの思い出」では、「読むこと」と「書くこと」は単元に関する表現以外のものも扱い、小単元の最後に段階的に取り組ませる構成である。	○第6学年「夏休みの思い出」では、「読むこと」と「書くこと」は単元に関する表現を扱い、単元末に取り組ませる構成である。	○第6学年「夏休みの思い出」では、「読むこと」と「書くこと」は単元に関する表現を扱い、単元末に取り組ませる構成である。	○第6学年「夏休みの思い出」では、「読むこと」と「書くこと」は単元に関する表現を扱い、単元末に取り組ませる構成である。
	○言語活動は、単元の終末にやり取りの活動を設定している。また、3つの単元を学習した後に、3つの単元で習得した知識・技能を統合的に活用するスピーチ活動を設定している。	○言語活動は、単元の終末に、発表の活動を設定している。また、4～5つの単元を学習した後に、4～5つの単元で習得した知識・技能を統合的に活用するスピーチやクイズの活動を設定している。	○言語活動は、単元の終末に、4技能全てに関連する活動を設定している。また、5つの単元を学習した後に、5つの単元で習得した知識・技能を統合的に活用する活動を設定している。	○言語活動は、単元の終末に、発表、やり取り、書く活動を設定している。また、3～4つの単元で習得した知識・技能を統合的に活用するインタビューや紹介の活動を設定している。	○言語活動は、単元の終末に、やり取りの活動を設定しているが、各単元で習得した知識・技能を統合的に活用する活動は設定されていない。	○言語活動は、単元の終末に、やり取りの活動を設定しているが、各単元で習得した知識・技能を統合的に活用する活動は設定されていない。	○言語活動は、単元の終末に、発表ややり取りの活動を設定している。また、2～3つの単元で習得した知識・技能を統合的に活用する活動を設定している。

選定結果資料 種目 [道 徳]

発行 者名	東 書	学 図	教 出	光 村	日 文	光 文	学 研	廣あかつき
特 徴	○教材「手品師」(第6学年)については、発問は2つで、資料から考える前段の発問が1つ、自分の生活につなげて考える後段の発問が1つある。	○教材「手品師」(第5学年)については、発問は別冊「まなび」に3つで、資料から考える前段の発問が2つ、自分の生活につなげて考える後段の発問が1つある。	○教材「手品師」(第6学年)については、発問は5つで、抽象的な発問が見られる。	○教材「手品師」(第6学年)については、発問は4つで、導入、前段、後段の発問が記載されている。	○教材「手品師」(第6学年)については、発問は4つで、前段、後段の発問が記載されており、価値葛藤で多面的、多角的に考えることができる発問である。	○教材「手品師」(第5学年)については、導入・前段・後段に分かれて7つの発問があり、焦点化した話し合いになりにくい。	○教材「手品師」(第5学年)については、発問は2つで、資料から考える前段の発問が1つ、自分の生活につなげて考える後段の発問が1つある。	○教材「手品師」(第6学年)については、発問は4つで、発問の意味がわかりにくいものがある。
	○問題解決的な学習に適した教材には、目次及び該当ページにマークをつけて示し、教材の終わりに、問題を解決するための「考えるステップ」を設けているので、問題解決的な学習を展開しやすい。	○問題解決的な学習に適した教材には、別冊「まなび」の中に「考えよう」のマークをつけて示している。	○問題解決的な学習ができるよう、教材の終わりに「考えよう」「深めよう」等のコーナーを設けているが、全教材が同じ扱いであり、問題解決的な学習にはなりにくい。	○問題解決的な学習ができるよう、教材の終わりに「考えよう・話し合おう」のコーナーを設け、学習のめあてや発問を掲載しているが、全教材が同じ扱いであり、問題解決的な学習にはなりにくい。	○問題解決的な学習に適した教材には、目次及び該当ページにマークをつけて示し、教材の終わりに「学習の手引き」を設け、学習展開例を示しているので、問題解決的な学習を展開しやすい。	○問題の解決に取り組むことができるよう、冒頭の主題名の横や教材文の下段に、問いを示しているが、全教材が同じ扱いであり、問題解決的な学習にはなりにくい。	○「深めよう」のコーナーを教材の終わりに設け、問題解決的な学習の道筋を示しているが、問題解決的な学習にはなりにくい。	○問題解決的な学習ができるよう、教材の終わりに、「考えよう話し合おう」のコーナーを設けているが、第3学年～第6学年では、「学習の道すじ」の中で、学習のめあても示しており、主体的な学習になりにくい。
	○教材集のみの構成で、最後に学期ごとにまとめる書く欄がある。	○教材集と別冊の構成で、記述欄は別冊に価値に沿って問うものが1教材1問程度あるが、書き込むための欄は小さめである。	○教材集のみの構成で、記述欄は、ほとんど設けていない。学習の振り返りを書く欄はない。1年間の振り返りを書き込む欄が最後にある。	○教材集のみの構成で、学期ごとに、毎回の授業の記録を書く欄がある。	○教材集と別冊の構成で、記述欄は別冊にあり、主発問や自分の考えを書く欄に加え、自由記述欄もある。	○教材集のみの構成で、学びの足あととして、毎時間の振り返りを簡単に記述する欄が設けてある。学期ごとのまとめる書く欄がある。	○教材集のみの構成で、記述欄は、わずかしこ設けていない。学習の振り返りを書く欄はない。	○教材集と別冊の構成で、別冊に学習の振り返りを書く欄があるが、内容項目に準じた問いや自分の考えたことを書く欄が大きく、書き込む量が多い。
	○2つの教材を組み合わせたユニットを設けている。はじめを考える場を設定している。	○教材には、「ともにいきる」マークをつけている。	○目次及び該当ページにいじめに関連するマークが表示されているが、小さく分かりにくい。	○2つの教材とコラムを組み合わせたユニットを設けていじめを考える場を設定しており、いじめについて考える教材のまとまりであることが分かりやすい。	○教材とコラムを組み合わせたユニットを設けていじめを考える場を設定しており、目次から、いじめについて考える教材のまとまりであることが分かりやすい。また、第3学年以上ではいじめの構造等を詳しく説明している。	○教材とコラムを組み合わせたユニットを設けていじめを考える場を設定しており、教材に「いじめを生まない心」マークをつけている。	○中学年では、友達となかよくという視点で2つの教材と1つのコラムを関連させているが、目次に表示されているものからは、いじめに関する教材がどれなのか分からない。	○目次に表示されているものからは、いじめに関する教材がどれなのか分からない。
	○各学年、巻頭の「道徳の学習を進めるために」の中に、話し合いの約束を示すとともに、「ちょっとみんなで話し合ってみよう」のページを設定しているが、話し合いの具体的なイメージにはつながりにくい。	○巻頭の「道徳の学習を始めよう」の中に、話し合いの状況を子どもの言葉で示している。話し合いの具体的なイメージを持ちやすい。また、別冊「まなび」の巻末に話し方・聞き方、話し合いのポイントを示しているので、考えを伝え合う活動を促しやすい。	○巻頭の「〇年生の道徳の学習が始まるよ」の中に、話し合いの意義や活動について示している。また、教材の終わりの「つなげよう」の中に考えを伝え合う活動を促す発問があり、活動の具体的な状況を示している。	○巻頭の「道徳の時間」の中に、「考えよう」というキーワードを用いた学習活動の一環として、話し合いの具体的な状況を示している。話し合いの具体的なイメージを持ちやすい。	○巻頭の「道徳の学び方」の中に、話し合いの状況を子ども言葉で示している。話し合いの具体的なイメージを持ちやすい。また、「心のペンチ」や「学習の手引き」に、考えを伝え合う活動を促す発問があり、活動の流れを具体的に示している。	○巻頭の「道徳の時間」は、こんな時間で」の中に話し合いのポイントを示している。また、教材の終わりに、考えを伝え合う活動を促す発問がある。	○巻頭の「道徳の学習が始まるよ」の中に学習の手順に、話し合いのポイントを示している。また、「深めようのページ」の中に「活動」の欄を設け、話し合いを促している。	○巻頭の「道徳の時間」はこんな時間」の中に、話し合いの意義やポイントを示している。また、教材の終わりに、考えを伝え合う活動を促す発問がある。

